

# 卒業アルバムづくり

## AIで負担軽減

小中学校の教員や保護者の負担となっている卒業アルバム（卒アル）制作。注文を受ける側の製本メーカーも受注が短期間に集中するため、毎年末以降に休み返上の操業を迫られる。「ITの力で困り事を解決し、子どもたちの思い出を残し続けてほしい」。そんな思いから、ウェブサービス開発会社「エグゼック」（目黒区）社長の古田貴也さん（45）は、人工知能（AI）を活用した卒アル制作支援システムの開発に取り組んだ。（砂本紅年）

多忙な先生や業者

働き方改革を



「卒アルに悩む全国の人を知って  
もらいたい」と話す古田貴也さん  
目黒区で

AIに学習させた卒業アルバムの一部（一部画像処理）



「卒アルで大変な思いをしている全国の人に知ってもらいたい」

2006年に起業した古田さん。翌年、写真館がネット上で学校写真やイベント写真を販売できるシステムを構築し、利用者を増やしてきた。

そんな中で耳にしたのが卒アル問題。東京ではPTAや卒業対策などの保護者が担うケースが目立つが、多くの地域では担任らが本業の合間を縫い、制作を担っていた。大量の写真からなるべく各児童、生徒が同じ頻度で載るよう配慮。登場回数を1人ずつ数え、手作業でレイアウトを決め、業者に写真の入れ替えを指示するなど何度も校正することも珍しくない。

製本メーカー側の負担も大きい。受注が年明け一気に集中し、納期に間に合わせるため、

人手不足の中、従業員らが働き続ける状況があった。

### 子どもの登場回数検知

そこで古田さんが考えたのはAIの活用。開発担当者が中心となり、卒アル100冊以上を利用し、行事ごとによく使われる写真をAIに学習させた。AIがおすすめシーンや写りの良い写真を絞り込む。顔認識AIも搭載しており、子どもごとに登場回数を検知。回数が少ない子どもの写真を抽出してくれる。

20年5月、写真店向けに卒アル業務効率化システム「アルバムスクラム」として、主に写真店向けに発売。写真店が学校に提案する際のオプションとして活用する。費用は子ども1人当たり数百円がアルバム代などに乗せられることが多いという。

ウェブを使い学校や保護者、写真店、製本メーカーが同時に作業できるため「作業時間が劇的に減った」「発注が前倒してきた」などの声が届く。ほかにも「PTAが在宅でできる」「児童が授業で作った」との利点も。文部科学省も教員の働き方改革につながる事例の一つとして紹介。全国約1600校が導入する。



顔認識AIで子どもごとにアルバムの登場回数を検知する